スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

岐阜県 羽島市

自 治 体 名 ： 岐阜県羽島市
担 当 課 名 ： 羽島市教育委員会　学校教育課
電 話 番 号 ： ０５８-３９３-４６７４

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	53.66 ㎢
人口	64,728 人
公立中学校数	5 校
公立中学校生徒数	1,837 人
部活動数	47 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

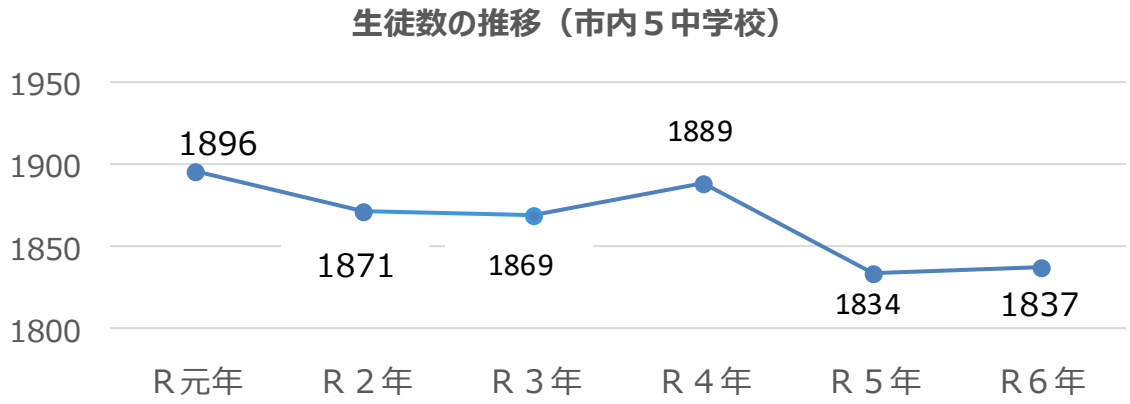
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

羽島市では、近年、生徒数の減少、部活動の任意加入の浸透はもとより硬式野球クラブやユースサッカークラブなどの外部クラブチームへの加入者が増加するなどのニーズの多様化により、部活動加入者が減少している。

また、生徒数、教職員数の減少等の実態に応じた部活動数になっていないため、部活動顧問の大きな負担になっている。

さらに、小規模校においては、生徒数の減少によりさらに部活動数を減らさざるを得ない状況になっている。そのため、集団競技の部活動では人数が揃わず試合に出場することができないために、個人競技の部活動に加入する生徒が多い状況になっている。

以上のことから、生徒が自分にあった種目が選択できる環境であるとは言えないため、生徒が多様なスポーツ活動に触れる機会を確保するとともに、教職員の負担を軽減するための方策が急務となっている。

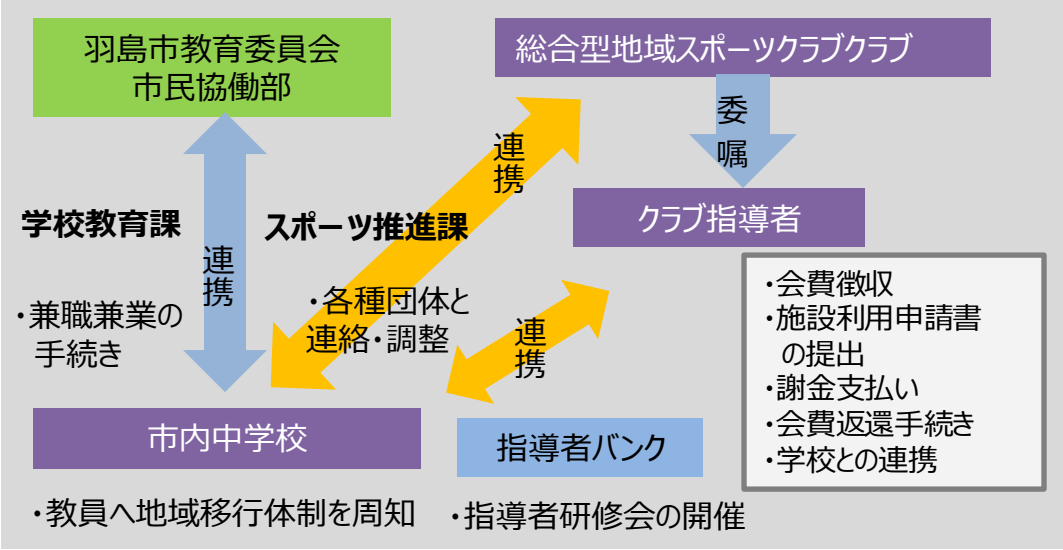


2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会（学校教育課）

- ・休日における運動部活動の推進体制を構築
- ・休日に総合型地域スポーツクラブ活動を希望する教員への兼職兼業手続き
- ・休日の運動部活動の地域移行について、教員への制度周知

◉市民協働部（スポーツ推進課）

- ・羽島市総合型地域スポーツクラブ、中学校との連絡調整
- ・体育施設使用料の免除
- ・施設利用に係る事前予約手続き

年間の事業スケジュール

令和６年４月	・クラブ連絡協議会（実施状況の確認）
令和６年５月	・クラブ連絡協議会（連携方法の検討①） ・クラブ総会の実施
令和６年６月	・中校長会との協議会 （合同チームの在り方検討等） ・クラブ連絡協議会（連携方法の検討②）
令和６年７月	・クラブ連絡協議会（連携方法の検討③）
令和６年８月	・クラブ連絡協議会 （今後のクラブの在り方検討①） ・地域クラブ指導者研修会の実施 ・新役員向けクラブ説明会
令和６年９月 ～11月	・クラブ連絡協議会 （今後のクラブの在り方検討②～④）
令和６年12月	・クラブ連絡協議会 （今後のクラブの在り方検討⑤） ・地域クラブ指導者研修会の実施
令和７年１月	・クラブ連絡協議会 （次年度に向けた制度の確認①）
令和７年２月	・クラブ連絡協議会 （次年度に向けた制度の確認②） ・生徒、保護者、指導者、部活動顧問へのアンケート調査 ・中校長会との協議会 （中体連の出場方法の検討）
令和７年３月	・クラブ連絡協議会（成果と課題）

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5 校	実施した地域クラブ総数	3 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		47 クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	98 人	全体の運営スタッフ数（代表者・指導者）	9 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
はしまモアスポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブ	野球、バスケ男女、バレー男女、ハンド男女、テニス男女、陸上、ソフトボール、卓球、剣道、柔道	月4回程度	3時間程度	1年 64名 2年 84名 3年 72名	7月～1月	学校体育施設、長良川多目的運動場、FUKUJUスポーツパークなど	35人	3人（内、兼務2人）	月会費500円／月 年会費6000円	中体連：部活動及び地域クラブ その他：部活動及び地域クラブ
はしまなごみスポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブ	野球、バスケ男女、バレー男女、テニス男女、陸上、卓球、剣道、柔道	月4回程度	3時間程度	1年 55名 2年107名 3年 72名	7月～1月	学校体育施設、長良川多目的運動場、FUKUJUスポーツパークなど	35人	3人（内、兼務2人）	月会費500円／月 年会費6000円	中体連：部活動及び地域クラブ その他：部活動及び地域クラブ
南部スポーツ村	総合型地域スポーツクラブ	野球、サッカー、バスケ男女、バレー男女、テニス男女、陸上、卓球、剣道	月4回程度	3時間程度	1年 66名 2年 79名 3年 68名	7月～1月	学校体育施設、長良川多目的運動場、FUKUJUスポーツパークなど	28人	3人（内、兼務2人）	月会費500円／月 年会費6000円	中体連：部活動及び地域クラブ その他：部活動及び地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- ３クラブのすべてのクラブにおいて、令和７年３月に６年生児童対象に４日間体験会を実施し、スムーズなクラブ加入につなげていく。

2.実証内容と成果

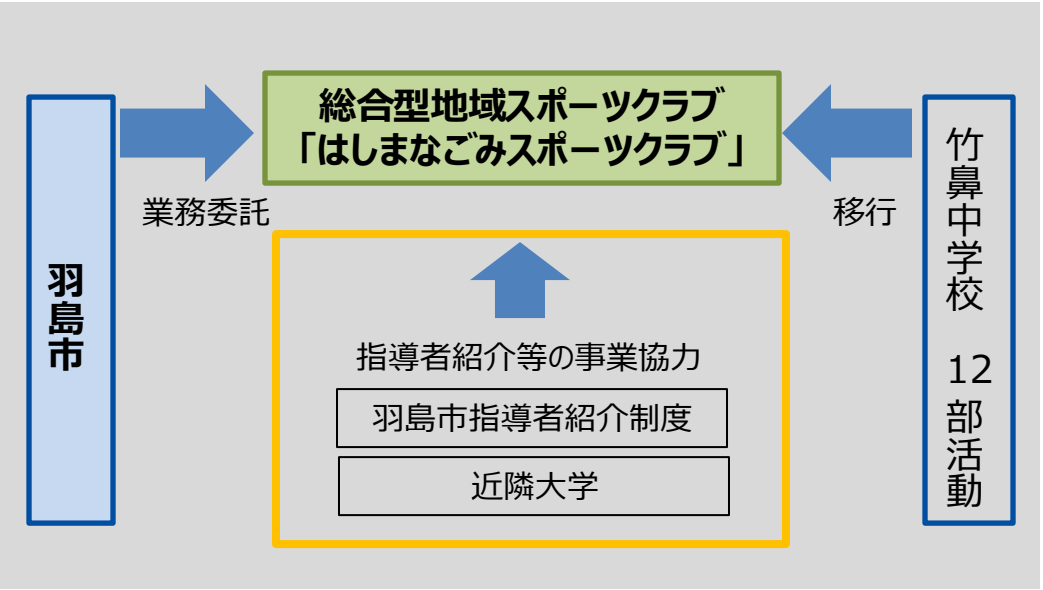
スポーツ庁

主な取組例

●はしまなごみスポーツクラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	軟式野球、男子女ソフトテニス、女子バレーボール、男女バスケットボール、卓球、剣道、陸上、柔道、サッカー
運営団体名	はしまなごみスポーツクラブ
期間と日数	各クラブ：７月１日 ～１月３１日 月４回程度
指導者の主な属性	社会人・兼職兼業教員・大学生
活動場所	竹鼻中学校体育施設 長良川多目的運動場 FUKUJUスポーツパーク　など
主な移動手段	徒歩、自転車、自家用車による送迎
１人あたりの参加会費等（年額）	入会金　6,000円 参加費　月500円（年間6,000円） 合計　12,000円 ※その他、各クラブごと必要に応じて徴収
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者（スポーツクラブ理事長）

役割：全体を統括し、管理調整を行う。

●クラブ運営事務員　２ 名

役割：円滑なクラブ運営のため、指導者謝金の支払い等の事務処理を行う。

●クラブ指導者　３５ 名（１２種目）

役割：加入クラブの運営及び生徒に競技の指導を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

月１回程度有識者、スポーツクラブ関係者、県スポーツ協会、市行政を交え、スポーツクラブの今後の在り方検討会を実施し、3クラブのさらなる連携を図ることや今後の運営・組織体制等について協議する場を位置付けている。

また、クラブ指導者、保護者、生徒及び地域の方等（自治会・体育振興会）を対象に部活動の地域移行についての話題を含めて、今後のスポーツの在り方について、意見交流会を実施した。

取組の成果

今後、安定した運営及び組織体制を構築するために、３クラブ（はしまモアスポーツクラブ、はしまなごみスポーツクラブ、はしま南部スポーツ村）で協議した結果、３クラブの上位組織である【スポーツクラブ８４０（はちよんまる）】を設立した。また、安心安全な活動を作り出すために、一般社団法人を設立した。

意見交流会では、羽島市全体のスポーツの在り方を考える貴重な機会となった。少子化の時代における「こどものスポーツの在り方」について、組織間や種目間でどのような連携を図っていくことが重要であるかについて話し合われたが、具体的なアイデア等は出なかったため、年に１回以上継続して意見交流を開催していくことが必要であることがわかった。



意見交流会の様子

今後の課題と対応方針

これまで市内の３つの総合型地域スポーツクラブが運営・実施主体となり、地域スポーツクラブ活動が実施されていたが、令和７年４月より上位組織として設置した「一般社団法人スポーツクラブ８４０（はちよんまる）」が運営・実施主体として担っていく。市内で運営・実施主体が統一されることで単位クラブで人数が少なくてチームが編成できない・指導者が不足していて練習等がうまくできない場合には、クラブ内で連携を密に図ることができるため、充実した活動環境をこどもたちに提供できると考える。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

スポーツの振興と健康増進を図るため、さらに、地域スポーツクラブ活動を実施するうえで、指導者数を確実に確保するために、各種スポーツ・レクリエーションの指導者を登録し、依頼に応じた適切な指導者を紹介する羽島市スポーツ指導者紹介制度を定めた。

人材バンクの人数

２１名

人材バンクの年齢構成

10代	０名
20代	０名
30代	８名
40代	５名
50代	４名
60代以上	４名

登録者属性

男性・・・・・・・・・・18名
女性・・・・・・・・・・3名
・公務員
(教員、刑務官、警察官等)
・会社員
(福祉関係・建築関係・電子関係等)

種目

弓道・・・・・・・・・・・1名
柔道・・・・・・・・・・・10名
ソフトボール・・・・・・1名
ハンドボール・・・・・・4名
剣道・・・・・・・・・・・1名
卓球・・・・・・・・・・・1名
競泳・・・・・・・・・・・1名
空手道・・・・・・・・・1名
その他・・・・・・・・・・1名

資格有無

公益財団法人日本スポーツ協会・公益財団法人日本レクリエーション協会・公益財団法人日本パラスポーツ協会の公認スポーツ指導者等の資格を有する者
【９名】

取組の成果

以前、地域でスポーツを楽しんでいた方が、本事業を通して指導者登録した事例があるなど、着実に地域指導者を増やすことができている。成果として、９競技において指導者を確保できている。しかし、指導者の登録は少しずつ進んでいるものの、団体に紹介するところまでは至っていない。指導者の紹介依頼の問い合わせはあるが、依頼がある競技の指導者の登録がない場合があるため、今後はさらに多くの競技で指導者の登録を進めて行きたい。そのために、運営団体のホームページで紹介したり、様々な会議等で指導者紹介制度について周知する。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

テーマ：成功体験へと導く～ふれあいと提案の積み上げ～

内容：運動指導者に必要な５要素
　　成功体験とは
　　自身が思い描く理想のコーチ像（ワークシート）
　　コミュニケーション能力とは（ワークシート）
　　指導のうえで大切にすべきこと
　　運動の４要素（運動を確立するために必要な要素）
　　体感トレーニングの実践　　等

講師：株式会社アクトス事業推進部フィットネス事業課
　　課長　都筑　啓太　氏

指導者研修の参加実績

・開催日時：　令和６年８月　２５日（日）
　　１０：００～１１：３０
・会　　場：　不二羽島文化センター　401大会議室
・参加人数：　５３人

本市と（株）バローホールディングスとの包括連携に関する協定書に基づき、教育・スポーツの推進に関する連携の一環として開催した。

受講者の声

- 体幹トレーニング等の実践があったことは大変勉強になった。
- もっと具体的な事例を知りたかった。（どんな顧客がいて、どんな指導で満足したのか）
- 民間の指導者からの実践が大変勉強になった。



研修会の様子

今後の課題と対応方針

本市は、毎年指導者の資質向上のために研修会を実施している。今回は、民間企業と連携した研修会を実施した。民間企業が顧客を獲得する・満足させるうえで重要にしていること・実践していることを参加者が研修した。今後の検討課題としては、年間に何回実施することが指導者の成長につながるのか。様々な競技や性格の指導者がいる中でどのような研修会テーマを設けることがよいのかを今後さらに検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

市内の中学校及び義務教育学校で校務分掌として地域移行担当者を位置付け、適宜、担当者会を実施した。このような会を設け、学校、スポーツクラブ、行政（学校教育課やスポーツ推進課）が共通理解を図ることで連携を強化することができる。さらに、中校長会に地域移行担当者校長を位置付けた。

取組の内容

８月２２日（木）
第１回担当者会（参集型）
【参加者】
・各中学校地域移行担当者
・スポーツクラブ840幹事長
・地域移行担当校長
・学校教育課・スポーツ推進課担当者
【内容】
・運動部・文化部の現状確認
・担当者の今後の動き（スケジュール確認）
・スポーツクラブと学校の意見交流

１１月５日（火）
第２回担当者会（オンライン型）
【参加者】
・各中学校地域移行担当者
・スポーツクラブ840幹事長
・地域移行担当校長
・学校教育課・スポーツ推進課担当者
【内容】
・文化部活動の休日の地域移行について
・新入生1年生への説明会の方法等
・意見交流

取組の成果

・担当者会を位置付けたことで学校・スポーツクラブ・行政の3者が足並みをそろえて地域移行に向けて取り組むことができた。
・意見交流の場を設けたことで、各学校やスポーツクラブの困っていること等を共有することができた。
・地域移行完了後も継続的に地域と学校が連携できる場を 位置付けることができた。

今後の課題と対応方針

今後は他の関係団体や分野との連携を強化していくことが大切である。

例えば、指導者確保の面で、近隣の大学と連携し、学生の派遣ができるシステムを構築する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

市内に３つ設置している運営団体を１つの運営団体に集約し、同様なスポーツ環境を提供できる組織体制を来年度より本格運用できるよう整備した。



設立報告会の様子

取組の内容等

・運営団体の設立に向けて、月１回会議を設けた。

第１・２回（４月２４日、５月１５日）
→短中長期実行計画及びSC８４０運営規定について
第３回（６月１９日）
→ミッション、ビジョン検討
第４回（７月１７日）
→法人取得に向けて司法書士及び会計士に相談
第５回（８月２１日）
→スポーツ在り方会議及び法人取得に向けて
第６回（９月１８日）
→一般社団法人取得に向けて
第７回（１０月１８日）
→事務局開設に向けて
第８回（１１月６日）
→事業計画及び設立報告会について
第９回（１２月１１日）
→設立報告会について
◆１２月１５日
一般社団法人SC８４０設立報告会
第１０回（１月１５日）
→活動ハンドブックの検討・作成
第１１回（２月７日）
→クラブ説明会に向けて
第１２回（３月１９日）
→事務局開設に向けて

取組の成果

・市内に３つ設置している運営団体を１つの運営団体に集約することで、すべての生徒、指導者が格差なく一律の活動が行えるようになる体制が整備できた。

今後の課題と対応方針

・クラブ会員（生徒や保護者）や指導者への連絡体制の確立
→今後、アプリを導入し会員や指導者に登録してもらうことで、各種費用の支払い、スケジュール管理、出欠確認をシステム化する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実①

取組事項	各取組の内容等
【取組①】 生徒の多様なニーズに応じた取組 【取組②】 関係者のニーズや意見等を反映させる取組 【取組③】 レクリエーション的活動の取組	【取組①について】 ○生徒の選択肢の拡大 これまで部活動では、原則１種目のみにしか加入できなかったが、地域クラブ化したことで生徒自身の希望があれば、複数のクラブに加入できるようになっている。 また、在住地域のスポーツクラブに希望の競技種目がない場合は、他地域のスポーツクラブに設置されている希望の競技を選択することができる。 さらに、１クラブ単位でチームが編成できない、練習が成立しない場合は、クラブ間で合同チームを編成し、合同練習を実施したり、試合等に出場したりすることができる。 以上のような体制を整備することで、すべての生徒に同一の環境を提供することができ、多くの生徒のニーズに応えることができた。 【取組②について】 ○アンケート調査の実施（次項参照） 生徒、保護者、指導者、顧問を対象にアンケートを実施している。アンケート結果をもとに、体制の成果や課題を洗い出している。毎年アンケートを実施することで、新たな課題を見出すことができ、体制の改善に役立てている。令和６年度は2月～3月にかけてアンケートを実施する。 【取組③について】 ○小学校からの円滑なクラブ加入のための事前体験会の実施 新中学１年生を対象に事前体験会を３月に実施する。事前体験会を実施することで４月からクラブに加入することができる。新１年生は入学前に体験することができ、活動のイメージを持って中学校に入学することができる。今後、広報活動を見直し、多くの児童に参加してもらえるようにしていく必要がある。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

生徒用　質問項目	令和３年度結果	令和４年度結果	令和５年度結果	令和６年度結果
活動について、満足しているか。	83%（満足）	81%（満足）	90%（満足）	85%（満足）
仲間との絆を深めることができたか。	96%（できた）	96%（できた）	95%（できた）	96%（できた）
顧問が参加しないことで戸惑ったことはあるか。	92%（ない）	96%（ない）	93%（ない）	94%（ない）

保護者用　質問項目	令和３年度結果	令和４年度結果	令和５年度結果	令和６年度結果
活動について、満足しているか。	62%（満足）	72%（満足）	72%（満足）	83%（満足）
保護者負担について、適切であるか。	62%（適切）	80%（適切）	75%（適切）	77%（適切）
顧問でない指導者に安心して任せることができるか。	81%（できた）	81%（できた）	83%（できた）	90%（できた）

指導者用　質問項目	令和３年度結果	令和４年度結果	令和５年度結果	令和６年度結果
活動について、満足しているか。	71%（満足）	81%（満足）	62%（満足）	64%（満足）
顧問と連携できたか。	67%（できた）	95%（できた）	64%（できた）	56%（できた）
保護者と連携できたか。	83%（できた）	85%（できた）	87%（できた）	90%（できた）

顧問用　質問項目	令和３年度結果	令和４年度結果	令和５年度結果	令和６年度結果
活動について、満足しているか。	100%（満足）	95%（満足）	96%（満足）	94%（満足）
クラブ指導者と連携できたか。	90%（できた）	69%（できた）	77%（できた）	83%（できた）
他の地域・学校において推進するべきと感じるか。	100%（感じる）	100%（感じる）	—	—

（前年度より上昇…赤字、前年度より減少…青字）

※令和3・4年度は1クラブ（なごみスポーツクラブのみ）の結果。令和5・６年度は3クラブの結果。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

●参加者の声

生徒の声

○練習時間も多く、専門のコーチからポイントなども聞きやすく、仲間と楽しみながら内容の濃い練習ができる。

○専門のコーチに教えてもらえるため、スキルが身に付く。

○先輩や他校との交流があり、いい刺激になる。

○学校で部活が出来ない分、土日に活動ができるし、コーチも自分ができていないところをしっかりアドバイスしてくれるから。

●練習場所への移動に時間がかかる。

保護者の声

○練習時間が充実しており、練習試合も多くあり色々と学べている。

○子どもが楽しそうに活動しているし、コーチも熱心に指導してくださる。

○楽しく向上心を持って生き生きと取り組めているため。

○休日、クラブに行き、充実した1日を過ごしている。上手くなりたいと意欲的に参加していて嬉しそう。

●子どもは楽しんでやっているが、思っていたより親の役割が大きい。

指導者の声

○保護者、顧問、生徒と協力して、活動を行えている。

○クラブでの活動を通じて、私自身もスポーツや青少年育成に関わることができ、地域参加・地域貢献につながっていると感じられる。

○中学生たちとの世代を超えた関わりの中で、生徒たちとともに活動を通じて様々な体験や学びが得られることに満足し、感謝している。

○継続的に指導に関わることで生徒の成長を間近で実感することができ、さらに中学生の子ども達と関わる中で自分自身の指導力、技術、教育観や人間性も成長する機会となっている。

●合同チームの場合、それぞれの指導方法が違うため、生徒との競技への取り組み姿勢に大きな差を感じる。

顧問の声

○子どもたちは専門的な指導のもとスポーツに取り組むことができる。

○教材研究の時間を確保することができた。

○休日の拘束時間がなくなったことにより、家庭や趣味に時間をかけることができる。

○連絡ノートやメール等で休日の練習について教えてもらえる環境があるため、生徒間トラブル等もすぐに把握できる。指導者が学校の指導方針をよく理解している。

●指導者とは連絡ノートやメール等で情報共有しているが、放課後の部活動指導において、クラブで行っている指導や重点などを正確に理解できていない部分もあり、一貫した指導をすることが難しい。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- 市内の生徒たちに同じスポーツ環境を提供するために３クラブ（はしまモアスポーツクラブ、はしまなごみスポーツクラブ、はしま南部スポーツ村）が連携して上位組織である「一般社団法人スポーツクラブ８４０」を設立できた。
- 月に１回程度関係者（有識者、県スポーツ協会、スポーツクラブ関係者、市行政）が参集し、地域スポーツクラブ活動の今後の在り方を協議した結果、クラブ間の連携が密になり、少子化でチームが編成できない場合、合同チーム等編成し、対応することができた。
- 指導者の育成に向けて、民間のスポーツクラブ（フィットネスクラブ）のインストラクター兼指導者を講師に招き、研修会を実施した。
- 羽島市スポーツ指導者紹介制度による２１名の指導者を確保できた。

●成果の評価

- 上位組織である「一般社団法人スポーツクラブ８４０」が設置されたことにより市内で同じスポーツ環境がこどもたちに提供できることにつながったことがよい。これまでは学校の規模に応じた選択肢しかなかったため、小規模校であっても可能性が広がったことが評価できる。
- 関係者を参集して協議を定期的に進めたため、関係者の中で地域スポーツクラブ活動を自分事として考えるようになり、地域を巻き込んで活動を実施できることにつながっている。
- これまではトップアスリート等を講師に招き、指導者研修会を実施してきたが、今回はスポーツを指導するプロから、こどもたちを満足させるスキルやテクニック等を学べたことは大変有意義であった。

●今後に向けて

- 上位組織である「一般社団法人スポーツクラブ８４０」が安定した運用ができるようになるため、継続的な支援が必要である。また、地域スポーツクラブ活動を担う人材等（クラブ事務局担当者、指導者）の育成も同時に進めていくことが重要であるため、定期的な協議会を開催していく。
- 指導者紹介制度を広く市民に周知していき、さらなる指導者の確保に努める。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和元年
●ステークホルダー
竹鼻中学校、竹鼻中PTA役員、保護者はしまなごみスポーツクラブ
→地域移行を進めるにあたり、部活動改善委員会を設置し、関係団体と相談及び検討をした。
●実施内容
・部活動の現状及び課題の交流、育成会運営の検討、育成会の役割及びあり方の検討、部活動運営方法改善スケジュール検討、規約改正の検討、はしまなごみスポーツクラブとの今後の関わり方
●実施にあたって生じた課題
・学校とスポーツクラブの連携だけでなく、行政とも連携を図り、各機関で役割を分担し、どのように実施していくのかを検討していくこととなった。

令和２年・３年
●ステークホルダー
竹鼻中学校、はしまなごみスポーツクラブ、学校教育課、スポーツ推進課
→はしまなごみスポーツクラブに移行先団体として、受け入れてもらえることとなったため、準備委員会を設置して月に１回程度会議を実施した。
●実施内容
・生徒・保護者・指導者説明会の内容検討、会費・参加費の金額検討、指導者謝金検討、活動ハンドブック作成、予算案作成、施設利用調整　等
●実施にあたって生じた課題
・指導者が不足したときにどのように対応していくのかが課題となったため、市スポーツ協会に加盟している連盟・協会に協力依頼した。

令和４・５年
●ステークホルダー
羽島中学校、中島中学校、桑原学園、はしまモアスポーツクラブ、はしま南部スポーツ村、学校教育課、スポーツ推進課
→中学校区を担当している総合型地域スポーツクラブが移行先団体として、受け入れを承諾し、準備委員会を設置して月１回程度会議を実施した。
●実施内容
・生徒・保護者・指導者説明会の内容検討、活動ハンドブック作成、予算案作成、施設利用調整、指導者の確保　等
●実施にあたって生じた課題
・中学校ごとによって設置してある部活動数が異なるため、選択肢に差が生じている。少子化により団体種目が困難であるクラブが増えてきた。

令和６年
令和６年度４月よりすべての中学校で休日の地域移行を完全実施。
●実施内容
・生徒・保護者・指導者説明会の内容検討、予算案作成、施設利用調整、指導者の確保　等
●実施にあたって生じた課題
・指導者の確保するために謝金の見直しが必要。

●今後の展望
・令和７年度より、文化部の休日の地域移行を段階的に実施する。令和６年度については、一部の文化部で試行実施する。

令和元年
部活動改善委員会の設置
検討開始

▶

令和２年・３年
準備委員会の設置、関係機関との協議　等
竹鼻中学校　地域クラブ活動の開始（令和３年度）

▶

令和４年・５年
地域クラブ活動の拡大
羽島中学校・中島中学校・桑原学園
地域クラブ活動開始（令和５年度）

▶

令和６年
全ての中学校で休日の地域クラブ活動開始（令和６年度）
文化部活動の地域移行準備

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

羽島市教育委員会　部活動改革スケジュール

